

道南太平洋海域スケトウダラニュース

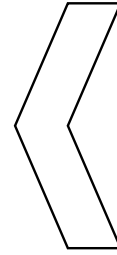
平成19年度 第1号

2007年 9月28日

北海道立栽培水産試験場
調査研究部

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605



道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：平成19年8月29日～9月5日
- ・調査海域：道南太平洋の水深100～500m海域

水深200m以深の水温は5 以下とスケトウダラに好適
魚群反応は渡島から胆振支庁海域に広く分布
反応の強い分布水深は250～300m前後
スケトウダラの平均反応量は前年同時期よりやや減少
はしりの漁獲は前年よりやや減少の予想

1. 調査海域の水深200m以深の水温は5 以下となっていました。
2. 魚群反応は渡島支庁から胆振支庁の広い範囲に観察されました。比較的強い海域は渡島支庁の189および193海区、胆振支庁の海区番号182と185でした（図1）。日高支庁海域の反応は比較的弱いものでした。
3. スケトウダラと考えられる魚群は水深200～400mの範囲に観察されました（図2）。
4. トロール調査の結果、水深200～300mの反応はスケトウダラ成魚と小型の未成魚、350m以深はスケトウダラ成魚とイトヒキダラと考えられました。
5. 魚探反応とトロール調査の結果から、漁獲対象となるスケトウダラ成魚は水深250～300mに多いと推測されます。
6. 調査海域の魚探平均反応量は、前年より減少しました（図3）。
7. 現在のところ、水温環境はスケトウダラにとって好適なようです。
8. スケトウダラの反応量から判断して、10～11月の漁獲量は前年よりやや減少して1.5万トン程度と予想されます（図3）。
9. 漁期前の計量魚探調査の結果は、漁期はじめの状態を調べる調査です。今後10月末、11月末、1月中旬にも調査を実施する予定ですので、続報に注意して下さい。

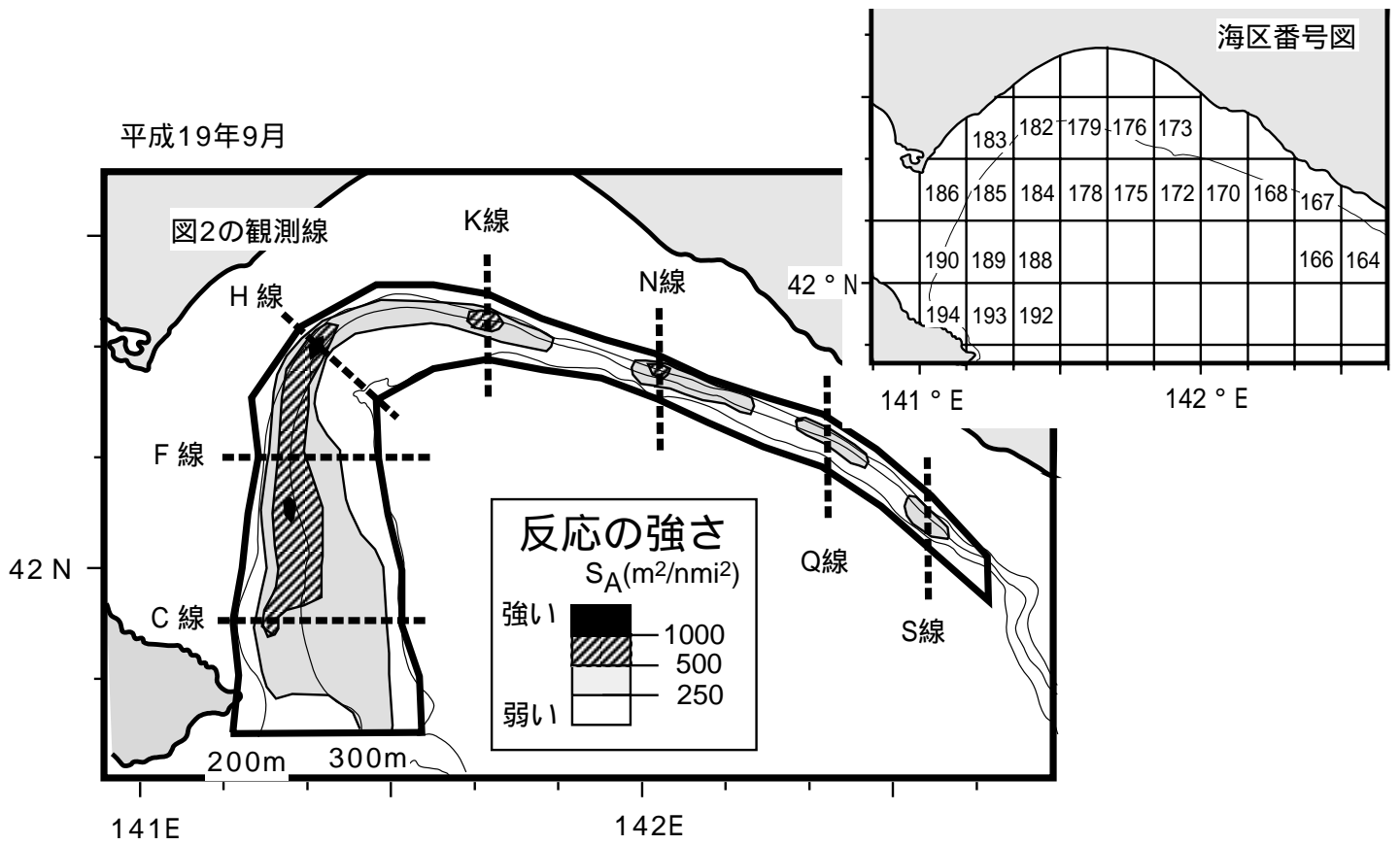


図1．調査海域における魚群の分布
 黒ワクの中が調査範囲

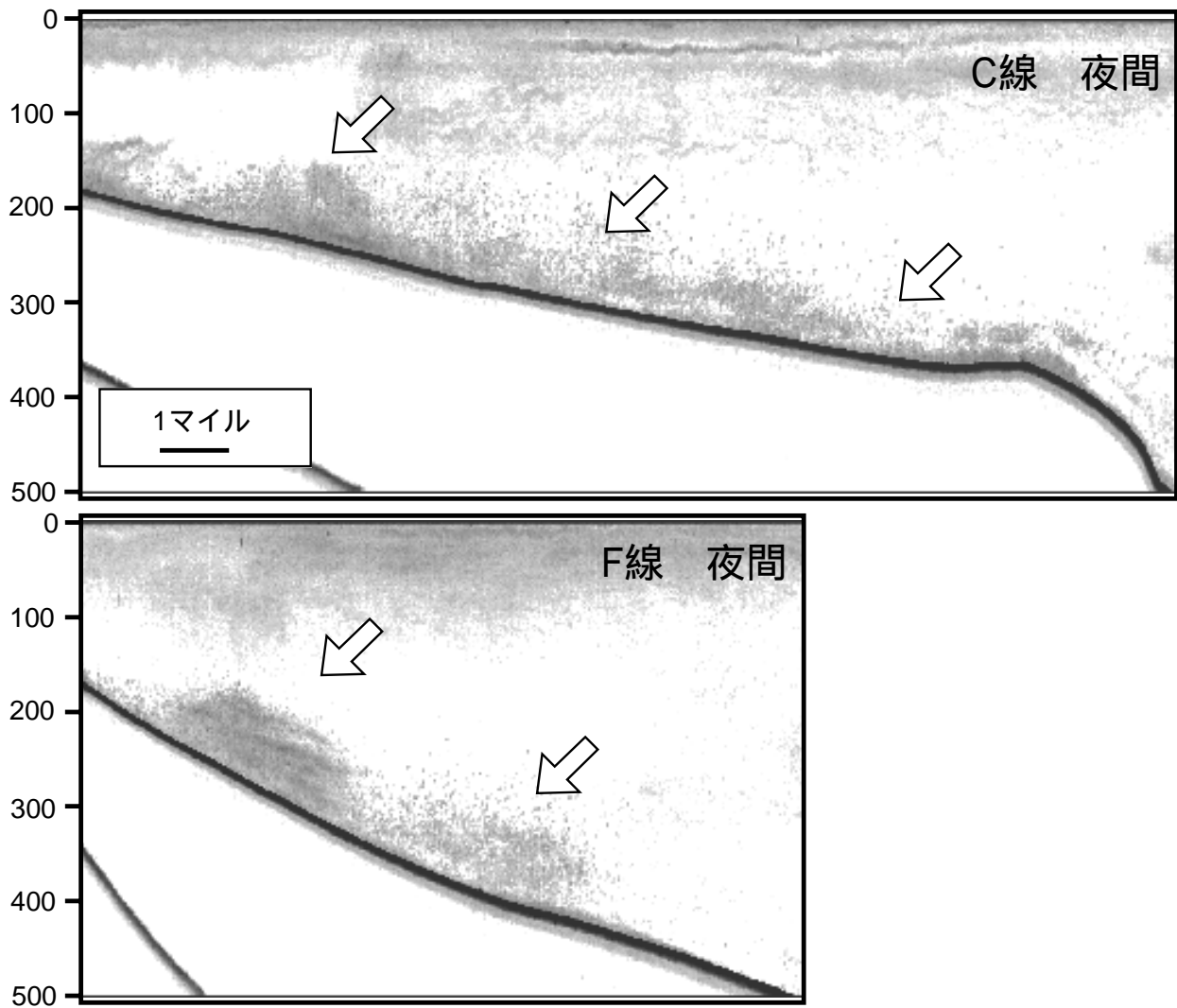


図2．魚群の分布（計量魚探画像）

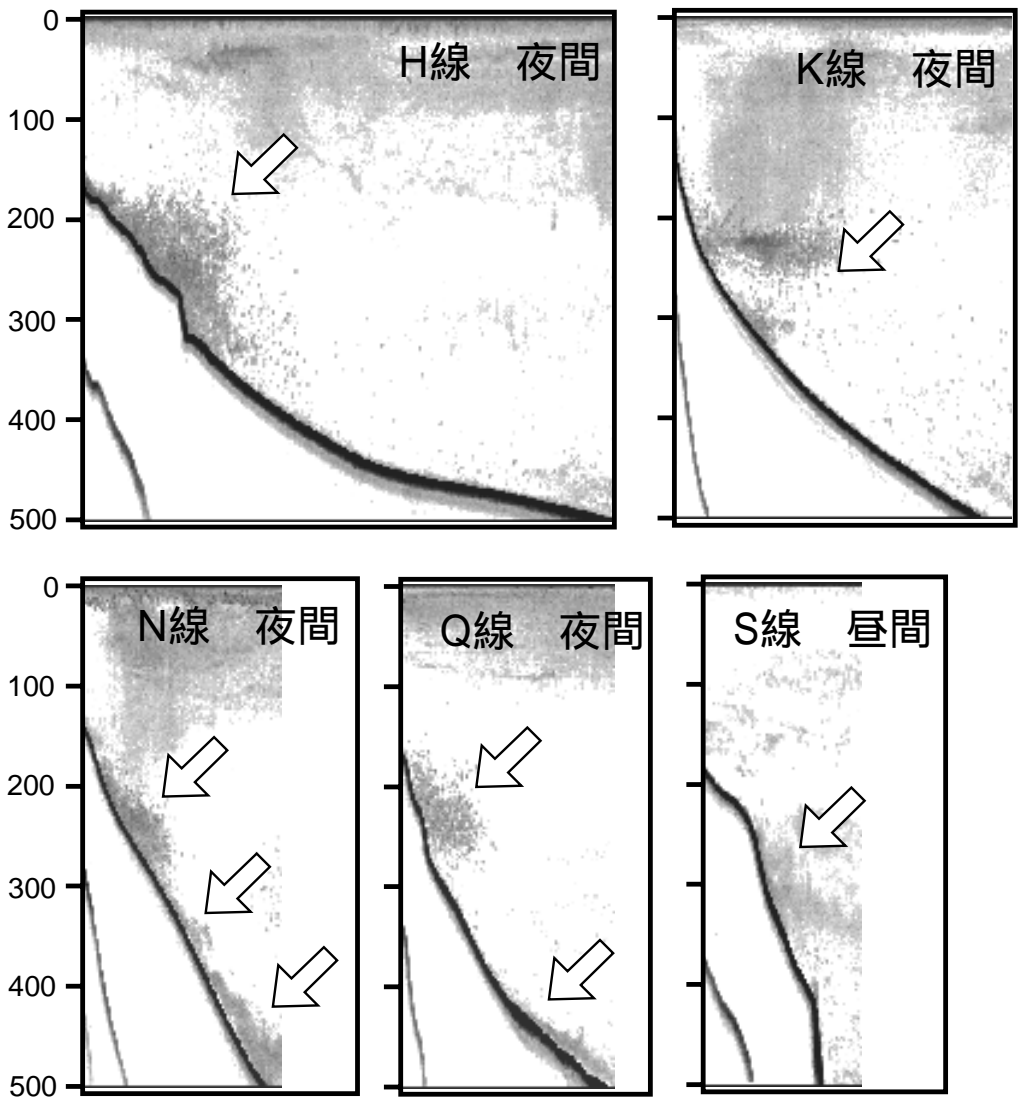


図2．魚群の分布（計量魚探画像）つづき

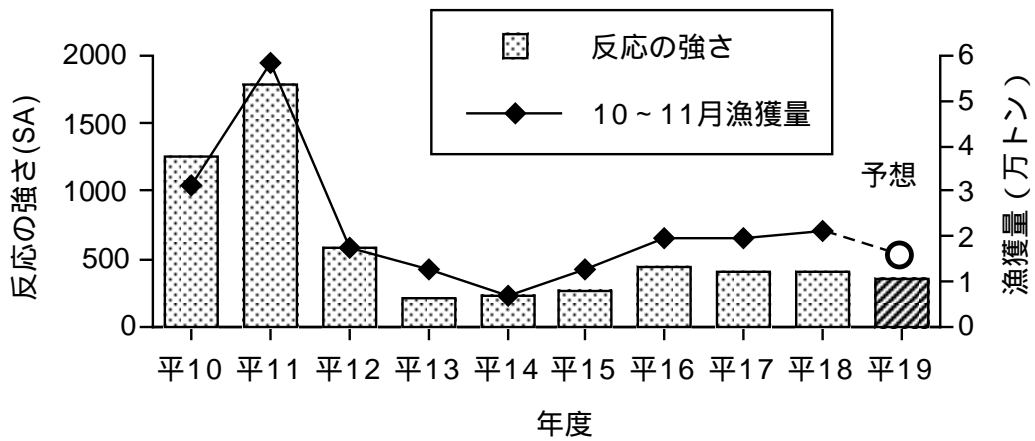


図3．魚探反応の強さ（棒グラフ）と10～11月の漁獲量（折れ線グラフ）の関係